

道労連第 34 回定期大会 希望を語り外へと広げよう

8月1日、道労連第34回定期大会が札幌で開かれ、建交労道本部から代議員5人が参加しました。大会は新型コロナの感染拡大で「第5波」が危惧される中、札幌圏在住者のみ会場参加とし、地方はオンライン参加となりました。三上友衛議長はあいさつで「全労連・道労連が築いてきた労働組合の基本的な役割をあらためて見直し、引き継ぐものはしっかり引き継ぎながら、組織の革新に飛び出す1年にしよう」とよびかけました。

討論では、9単産5地域などから18人が討論に参加しました。建交労からは土屋代議員が、事業団運動で生活困窮者や失業者支援にとりくんできたことや、ハローワーク前アンケートの重要性、建設労働者、職業病被災者にとりくみなどについて発言しました。

出口事務局長の総括答弁では、「希望を語り、現場のリアルな実態と思いを外へ外へとひろげよう」と討論のまとめをおこないました。すべての議案は満場一致で可決されました。

新年度役員には建交労道本部から、宮澤副議長（道本部書記長）、出口事務局長、竹田事務局次長が再選されました。

全国労災職業病部会総会

全国労災職業病部会は7月29日に第23回総会をオンライン併用で開催しました。北海道からは森国副部会長（道本部委員長）と石井事務局次長（後志労災支部）が出席し、代議員の高橋さん（札幌労災支部）など2人がオンライン参加しました。総会では13名の代議員が発言し、コロナ禍という厳しい状況のもとでも創意工夫して健康相談会を実施し、労災職業病で苦しんでいる労働者を組合に迎え入れている経験などが報告されました。

新年度役員には、森国副部会長、渡辺幹事（函館）、小玉会計監査（釧路）が再選され、退任した石井事務局次長に代わって高橋さんが新しく幹事になりました。

北海道建設アスベスト訴訟

全国初 第1陣・国との和解成立

8月5日、札幌高裁で「北海道建設アスベスト第1陣訴訟」の国との和解が成立しました。5月17日の最高裁判決で国と一部建材メーカーの賠償責任が確定し、国は「基本合意書」にもとづいて和解による賠償をおこなうことになりました。この日の和解成立は全国で初めてとなります。報告集会では、藤本明弁護士団長が「2011年4月に提訴してから10年余りで国との和解ができた。今後も国との協議をすすめるが、企業（建材メーカー）とのたたかいはこれからだ。全面解決にむけて引き続きがんばっていこう」とあいさつしました。原告団副団長の佐々木千恵美さん（建交労釧路支部）は「国が謝罪し和解したのは当然だが、これまでに多くの原告が亡くなっておりいっしょにこの日を迎えられるなかったことは悔しい。これ以上患者を出さないようにしてほしい」と訴えました。なお、「第2陣」は9月17日、「第3陣」は年内に札幌地裁で国と和解する予定です。